

在宅医療・介護を利用しご家族を看取った方の声

市内在住のAさんは令和4年6月、すい臓がんの治療を受けていた夫をご自宅で看取りました。入院ではなく、自宅で治療を受けることを選択し、約3週間、夫を献身的に支えたAさんにお話を伺いました。

夫 70歳代 一年前にすい臓がんの診断を受け、今年に入り肝臓への転移も見つかる。一言でいうと「昭和の人」という性格。パークゴルフやゴルフ、畑や庭の手入れ、サウナに入ることが趣味で自宅での療養中も毎日、友人・知人が訪れていた。

ご家族で在宅医療・介護を選択したきっかけ

夫の様子がおかしいと感じ、病院を受診し、2日間入院しましたが、夫も私も自宅に帰ることを望んでいて、目に入った病院内の「相談窓口」に相談をしに行きました。相談窓口を利用するのは初めてでした。相談したスタッフの方が「それじゃあ、すぐに調整しますね」と言い、私は、他に電話を一本もかけることなく、1～2時間後には地域包括支援センターの保健師が自宅に訪問にきてくれました。

療養する中で利用したサービス

まず、自動で体位交換を行うベッドが用意されて、私が夫の体位交換を行う負担はありませんでした。定期的に先生（医師）、看護師さん、薬剤師さんが来てくれ、夫の状態を見て、先回りし色々整えてくれました。痛み止めの麻薬を使う前には本人や娘、私たち家族の意見をきいてくれました。訪問入浴のサービスも利用していて、シャワーの後にもう少し髪を整えてあげれば良かった、あの時の髪型は気に入ってなかったんじゃないか、というのが一つの後悔です。夫は趣味で、市内に仲間と畑を借りていて、「楽園」と名付けていました。夫の希望で介護タクシーを手配し、一度、その畑の様子を見に行くこともできました。

先生は私の顔を見て「脱水の状態になっているよ」と声をかけてくれたこともあり、家に来てくれる先生方は本人だけでなく家族のケアも行うのだと感じたこともあります。

自宅でも必要な医療が受けられることを知ってほしい

夫は好きな庭とそこに咲く花を眺めて過ごすことができました。入院すると病室の窓からはその景色を見ることはできません。夫が在宅医療を受けている期間、不安はありませんでした。近所で介護している方がいると、在宅で医療を受けられるということをお話しています。

